

令和2年度 さいたま市立大谷口中学校 自己評価書

校長 柳澤 登紀男 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

本校の学校教育目標「かしこく・美しく・たくましく」のもと、目指す生徒像を「夢や希望が持てる生徒」「あいさつや返事ができる生徒」「真剣に聞き考える生徒」「思いやりのある行動ができる生徒」「何事にも意欲的に取り組む生徒」の5つとしその実現を図る。

(1) 重点・努力点

- ア 生徒の自己肯定感の醸成
- イ 生徒指導の目的である「自己指導能力」を育成し、生徒の自立を促す
- ウ ICTの積極的な活用を通じた生徒の学習意欲の喚起と基礎・基本の徹底、並びに主体的・対話的で深い学びの充実
- エ 学校の働き方改革の視点から、生徒と向き合える時間の確保

(2) 関連する評価項目

- ア ・学校が楽しい ・あいさつや返事をよくしている ・意欲的に学校生活を送っている
- イ ・先生や親は自分のことを理解してくれている ・相談事や悩みごとについて親身に応じてくれている ・あいさつをよくしてくれる ・皆が気持ちよく生活できるように生活態度などについて指導してくれる など
- ウ ・授業の内容がよく理解できている ・家庭ですすんで予習や復習をしている  
・先生は分かりやすい授業をしている ・先生は自分たちに学力をつけるよう努力してくれている
- エ ・本校職員として満足感、充足感がある など

2 評価結果について

- (1) 「学校が楽しい」について肯定的に回答した生徒が9割近い。一方、「夢ややってみたいことがある」「この学校で自分の良さや可能性を伸ばすことができる」について「わからない」と回答した生徒が1割を示しており課題である。
- (2) 「先生はいじめのない学校にしようとしている」について肯定的な回答をした生徒が約9割、「先生や親は、自分のことを理解しようとしてくれる・親身に応じてくれる」については8割を大きく超え、最も肯定的だった「先生はみんなが気持ちよく生活できるように指導してくれる」が9割5分であった。
- (3) 「先生は自分たちに学力をつけるよう努力してくれている」について肯定的に回答した生徒が9割を超え、「勉強が好き」な生徒が多い。一方、「家庭ですすんで予習や復習をしている」については、4割近くの生徒が否定的な回答をしており、引き続き家庭学習が課題である。
- (4) 職員の「充足感」等については、8割弱にとどまった。また4割は働き方改革の進展を感じられていない。コロナ禍の状況も鑑み、課題である。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 教育活動全体を通じて、個に応じた意図的・継続的な心のサポートや学力向上に向けた支援を組織的に行う。また、家庭との丁寧な連携や関係機関との密な連携を通し、生徒指導・教育相談等の課題解決に取り組む。
- (2) タブレット端末等を有効活用し、主体的で対話的な学習指導方法の工夫と改善に取り組む。
- (3) 働き方改革の視点から、諸会議の運営や事務作業の見直しなどの工夫・改善に取り組む。